



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成27年 1月30日

校長 福田 俊彦

人権教育の推進

校長 福田 俊彦

1月24日(土)、「南町小防災委員会 防災訓練」が行われました。大きな地震が起こったことを想定しての訓練です。昨年に引き続き、南町小学校の子供たちも参加をしました。仮設トイレの組み立て、バーナーや発電機の操作、AEDの使い方など、体験を重視した訓練となりました。この体験を通して、子供が地域の一員であるという気持ちを高める機会のひとつとなればと思います。「自分たちにもできることがある。しなければならないことがある。」に気づいていくことが大切です。ご尽力をいただきました防災委員会、地域の方々、練馬区の避難拠点要員の皆様に心より感謝を申し上げます。

先日、2年生の図工「めざせカッターの達人」～作って遊ぼうガムテープごま～の授業を参観しました。授業の初めに先生から、ただごまを作っているのではなく、安全で正しいカッターの使い方を勉強しているという話がありました。何のためにこの勉強をしているのかというねらいを明確にし、そのために、ごま作りを進めていることを子供たちが再確認できるようにしたのです。そして、みんなで学習することとして、「協力」という言葉が出てきました。協力とは、その人の代わりにしてしまうことではなく、どのようにしたらより安全な学習が行えるか、どのような工夫がよく回るごま作りに必要か、気づきや分かったことを伝え合うということでした。子供たちは、一刻も早くごま作りに取り組みたいのです。しかし、ここまでの話の内容は学習の価値を高める上でとても大切なことです。大切なことを如何に、分かりやすく、子供から引き出し、子供に伝えていくかは、これまでの指導の積み重ねから生まれてきます。今回、授業開始から5分で子供たちの活動が始まったのです。

子供たちは、カッターの使い方の決まりを守りつつ、ごまの芯を削っていきます。使わないときは刃をしまいます。友達にぶつからないように気を付けて動きます。ごまの芯にガムテープを巻いては、ごまの回り具合を確認します。芯の削り具合を確認します。友達のごまの回り方を見て、ヒントを探そうとします。工夫を聞いています。子供がはぐくみ合っていることが伝わってくる授業でした。

授業の中で、子供が互いを認め合い、自分のがんばりを自覚できることは、人権教育を推進する上でとても大切なことです。今回は図工の授業場面を紹介させていただきました。他の学校生活、学習の場面でもこのような子供の姿を見ることができます。2月14日は、土曜授業として、学習の公開があります。また、昨年度は雪のため延期を余儀なくされた持久走大会があります。持久走大会に向けての練習場面では、子供相互の関わりが高まっていることを感じています。

時節柄、ご多用のことと存じますが、子供が子供をはぐくむ場面を、その場面を教員が子供とともに創っていく場面をご参観ください。そして、将来を担う子供たちに励ましのお言葉をいただければ幸いです。